



INDOSPEED RACE SERIES 2013 - Putaran 5

参戦報告書

Race #1 決勝4位

Race #2 決勝リタイア

- ゼッケン/エントリー名 : #21/ JBR-M Synergy Force TRICKSTAR
- ライダー : 佐藤 周
- 監督 : 鶴田 竜二
- 開催日 : 10月5日(土)~6日(日)
- サーキット : Sentul Int'l Circuit /インドネシア
- マシン : カワサキZX-6R
- 結果 : 10月5日(土)RACE#1 予選2位・決勝4位
10月6日(日)RACE#2 予選2位・決勝リタイア

10月5日(土) 予選

フリー走行では 大幅なセッティング変更をせずに、フィーリングの良かった前戦に近いセッティングにて走行を行った。20分間しかない走行の後、13時から予選があり16時から決勝Race1が始まるため大きな変更を行うリスクを避け予選に備える事にした。
1分32秒543という3番手タイムにて走行を終えた。

予選 Weather Condition: sunny

フリー走行でのセッティングをベースにアタックを行う。

予選から決勝Race1, Race2と同じタイヤを使用しなければならないため予選ではタイヤを温存させる為、あまり周回せずにアタックしなければならないがなかなかクリアラップが取れず、周回数が多くなってしまい10周目のアタックとなってしまった。結果は1分32秒051と2番手タイムとなり、決勝はフロントロースタートとなったがタイヤの温存が出来なかった事がRace2まで影響する事となったしまった。

決勝Race1 Weather Condition: Cloudy

スタート直前に雨が落ち始め、路面に雨粒が見えるようになっていた。

前戦ではRace1は雨天中止となった事より、ここでチームはこの後も降り続けるのではないかと判断。セッティングをウェットコンディション向けに少々変更しスタートを切った。

まずまずのスタートを切った佐藤選手。オープニングラップを3位にて通過した。その後、レース中盤まで前の2台を追い掛ける形で序盤は周回を重ねる。1分32秒台という予選タイムに近いラップタイムで前の集団を追い掛けていたが後方より猛追してきたランキングトップの選手にパスされてしまい、4位に順位を落としてしまう。懸命に追い掛けるもトップグループの3台は後ろから迫っている事に気付いたのかペースを上げ、トップグループとの差が開いてしまう。チームの予想を裏切り、雨は上がり路面はドライへととなっていた。佐藤選手も更にペースを上げたいところではあったが、スタート前に少々変更したセッティングの影響からなかなかペースを上げる事が出来ずトップグループに離される形となり4位にてフィニッシュとなった。ただ、ラップタイムは確実に上がっており、手応えのあるレースとなった。

■10月6日（日）

ウォームアップ走行では前日のウェットコンディション用セッティングをドライ用に戻したが、リアサスペンションのセッティングに関しては今まで通りのセッティングよりも昨日のウェットコンディション用に近いセッティングの方が良いのではないかとライダーコメントよりこの時間はその確認を行ったがやはり今まで通りのセッティングの方を採用する事としRace2へ臨む事となった。

決勝Race2 Weather Condition: sunny

全5戦10レースにて争われたインドスピードレースシリーズもこのレースが最後となった。泣いても笑っても最後となるレースで有終の美で終わらせるべくチーム一丸となり臨んだ。前日と同様2番グリッド、フロントローにてスタートを待つ佐藤選手。スタートで若干で遅れてしまい、7番手まで順位を落とすも徐々にペースを上げて追い上げていった。周回を重ねる毎に順位を上げ、レース中盤には4番手まで順位を回復させた。10周目にはファステストラップを記録し、3位を走るマシンに迫った。激しい3位争いをして残った残り2周、佐藤選手は前を行くマシンをパスし3位へと上がった。その後も激しく3位争いを繰り広げていたが、残り2週の7コーナー目で転倒リタイヤとなった。猛プッシュを行っていただけに、チームは佐藤選手のケガを心配したが、幸い佐藤選手にケガはなく無事にピットへと戻ってきた。我々はIRSシリーズランキング4位となり2013年シーズンを終えた。

【ライダー 佐藤周】

「フリー走行・予選」

今年からのレギュレーションにより、予選からレース1・レース2をタイヤ1セットで走りきらないといけないので、

予選は2・3周で終わらず予定でした。が、上手くタイムを上げる事が出来ずに、10周近くでようやくまずまずのタイムが出たので終了。

自分のベストタイムから程遠いですが予選は2番手。

「レース1」

スタート直前から風が強くなり、上空には黒い雲。コース全体でポツポツと大粒の雨が降り始め、絶対にスコールになると思いグリッド上でセッティングを変更しました。これが、良い所と悪い所の両面を持っていました。

スタートは上手く行きホールショット。すぐに数台に抜かれてしまいましたが、4台のトップグループの後方で前半を折り返し、中盤に1台抜き3位で走行。レース終盤になり、他の3台がペースアップ。セッティング変更による悪い所が出始め、付いて行く事が出来ず単独4位でレース1を終えました。

序盤ポツポツと降っていた雨も路面を濡らす程の雨にはならず、僕の判断ミスとなってしまいました。

「レース2」

日曜日のレース2は、インドネシアらしい蒸し暑さと日差しで路面温度も70℃近くまで上昇。

ここでは、レース1と予選のセッティングの良い所を合わせて挑みました。

スタートを失敗して1コーナーで取り戻そうとしたら1台と接触し、大きく順位を落としてオープニングラップ7番手。

前を走行する1台に引っかかり、先頭が逃げ始め、早く抜こうとした瞬間に目の前の車両がエンジンブロー。中盤は、その時に前から飛んで来たオイルか冷却水に意識が取られてしまいペースアップ出来ませんでした。

レース前半に先頭集団で1台転倒も有り、後半は単独の5番手。タイヤの消耗など厳しい状況でしたが、そんな事も何もかも全部無視して、このままでは終わりたく無い！と、当たり前の事ですが、頭を切り替えて終盤に一気にペースアップ。レース中のファステストラップを更新しながら3番手・4番手を猛追し、残り2周で4番手をパス。そのまま3番手のすぐ後ろまで迫ったのですが、リアからスリップダウン。転倒したマシンをチェックしたらハンドル・ステップが折れていたため、ここでリタイヤとなりました。

完全に自分の弱さが出たレースとなってしまいました。

目標としていたチャンピオンからは程遠く、1勝もする事が出来ず、去年に続きまたもランキング4位でシリーズ終了しました。

スポンサー様、メーカー様、応援して頂いた皆様、チームの皆様、情けない結果に終わり大変申し訳ありません。

それと同時に、こんな自分を最後まで支えて下さった皆様の御支援、御声援が有り1年間戦い切る事が出来ました。

本当に、本当に有り難う御座いました。

【監督 鶴田竜二】

早いもので、インドネシアIRSが終わってしまいました。
ライダーも、メカニックチーム一丸となり頑張りましたが 我々が目指していたチャンピオンという
目標には届かなかったことは残念な結果となりました。

今シーズン、インドネシアで戦い切れましたのは、各スポンサー様はじめ、ファンの皆様のお陰です。感謝しております。
今回の反省を活かし、また今後のチャレンジに向け努力してまいりたいと思っております。